



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

### 瀬名知良 (A)

5

### — 『起業家精神』と『リーダーシップ』の行方 —

#### 序章 帰国の機上

10

慌ただしかった米国出張も、帰国の日を迎えた。

瀬名和良は、飛行機の窓からマンハッタンを見下ろしながら、昨日のディナーの席を思い出していた。

「あんなに楽しい夜は、記憶にないほど久しぶりだった。」

瀬名は、つぶやいた。

今回の米国滞在は1週間だった。シリコンバレーでの仕事を終え、帰国前のタイトなスケジュールの中であったが、昨日は投資先の起業家を訪ねるためにNYCまで移動してきていた。ブルックリン区のオフィスでの打ち合わせのあとは、久しぶりに創業メンバーたちと夕食を共にしたのだった。

15

大好きなNYCに、こうして自身の経営する会社の投資先ができ、彼らのような仲間とビジネスへの想いや夢を共有して、英語で深く語り合うことができる日が来るなど、学生時代には想像さえしたことが

20

なかった。はじめて自分で会社を興してから四半世紀、50歳代前半となった。楽なことばかりではない「起業」に何故、自分は関わり続けているのか。

自分が何より大切に思っていたもの、それは、人とのこんな「共創」の実感だったのかもしれない。自分の特性や能力を活かしながら、仲間たちの情熱と勇気を支え、ともに社会にとって価値ある新しいものを作り出しているという実感。

25

あの頃、ぼんやりと夢見ていたのはこういうことだったのかもしれない・・・。

起業家としての成功も失敗も体験し、立ち止まったこともあった自分だからこそ、今、こんな気持ちを味わうことができるのかもしれない。

本ケースは実在の起業家から情報を得て作成した。本文中の人物名、会社名は仮名である。記載内容について起業家本人から了承を得ている。作成したのは高木晴夫、鶴ヶ谷理子、市村真納である。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright © 高木晴夫、鶴ヶ谷理子、市村真納（2018年4月作成）